# 創刊の辞

東京大学百年史編集室室長　土田直鎮

東京大学百年の足跡は、即ち近代日本の学術史ならびに高等教育史の中軸を成すものであり、今の中に、その歴史の基礎を確実な史料に基いて固めて置くことは、我々の当然の義務である。

東京大学百年史編集室は、各部局を越えた東京大学全般の変遷を大観するために、数年間にわたって着々と各種史料の調査蒐集に努力を重ねて来た。しかし現状はなお極めて不十分であって、今後更に本学の内外にわたる広い調査を必要とし、そのためには情報交換を活潑にせねばならない。また一方では、個々の問題についてこれを学術的に検討する試みも調査の有効な推進方法を会得するために不可欠の作業である。

こうして百年史編集室において紀要の刊行が計画せられ、今回創刊の運びとなった。論考執筆者たる室員の多くは新進の研究者であり、採上げた問題も多様である。その内容がそれぞれに直接百年史の成果の一部を成すことは言うまでもないが、一面、この学術的作業を通じて、各自が史料の不足を痛感すると同時に、東京大学百年の歴史を跡付けることが如何に尨大な努力を要するものであるか、改めて思い知らされたのであった。

今回の紀要を「東京大学史紀要」と題して、敢えて「百年」の二字を除いた理由もここに存する。東京大学の歴史の調査は、数冊の百年史の刊行によって終了するものでは有り得ない。それは近代史の重要な一分野として、今次の調査研究の成果をも含めて、恒久的にその充実と研究とがはかられるべき学術上の問題である。

この、東京大学史研究の口火を切るものと言うべき本紀要の創刊に当り、今後の堅実な発展を念願し、あわせて諸賢の御理解と御後援とを請う次第である。

昭和五十二年十二月